

障害児者のきょうだいについて共に考えてみませんか？

NPO法人 湘南障害児者を守る会 まつぼっくり

深見 勝弘

障害児者は障害を持っているので生きていくのは大変です。

障害児者の親は障害児者の面倒をみなければならないので大変です。

きょうだいはそのことをよくわかっています。

わかっているからこそ悩んだり、我慢したり、不安を抱えていたりすることを皆様はご存知でしょうか？

きょうだいには、障害のあるきょうだいの事が好きで、親御さんのしていることを素直に受け止めている人もいますし、障害のあるきょうだいのことで困ることがあったり、親御さんが自分のことを愛しているか心配で、そのようなことを考えてしまう自分のことも嫌いで、それが辛いと思っている人もいます。その両方の気持ちを抱えている人もたくさんいるでしょう。親御さんには、きょうだいがそのような気持ちを抱いているということを理解し認めてほしいと思います。

きょうだいは障害のあるきょうだいの障害によって様々な影響を受けます。その影響はきょうだいの障害の種類や程度、性別、出生順位、年齢、親の障害受容、親のきょうだいへの心配りの有無や程度等によっても様々です。また、辛い影響もたくさんありますが、良い影響もたくさんあります。

きょうだいの年代ごと（幼年期、学童期、思春期、青年期、熟年期）にも考えなければならない問題があります。たとえば、学童期にはきょうだいは自分のことは自分でしなければならぬが多いため早熟となり、きょうだいの発達が促進されます。しかし、親に心配をかけまいと良い子でいることを強いられたり、言いたいことを言えないでいたりすることがあります。学校では障害のあるきょうだいのことでいじめられてしまうこともあるかもしれません。また、いじめられないように障害者のきょうだいであることを隠し他人のようにふるまってしまうこともあります。しかし、そういう自分に嫌悪感や罪悪感を持ち自分を責めてしまい一層辛くなってしまうこともあります。

ところがここできょうだいがきょうだいの障害についてしっかりと理解し、親御さんがきょうだいの気持ちを理解していたとしたらどうでしょう？少し自分のわがママが言えるかもしれません。いじめっ子には言い返したり、正しく説明してあげることができるかもしれません。とは思いませんか？

ここに記したことはほんの一部の問題ですが、このようなことからきょうだいに対して、親に対しての適切な支援が大変重要であると考えております。

私自身きょうだい支援の必要性に最近気が付いたばかりでまだまだわからないことだらけですが、共にきょうだい支援のことについて考えていく仲間を募っています。まずはアンケートなどによる実態調査やきょうだい同士、きょうだいと親が話し合える場を作っていきたいと考えています。

ご協力くださる方からのご連絡・お問い合わせをお待ちしております。

NPO法人 湘南障害児者を守る会 まつぼっくり 深見 勝弘（ふかみ かつひろ）

TEL:0466-43-2705 FAX:0466-43-2700 Email : katsuhiko@npo-matubokkuri.jp

URL: <http://www.npo-matubokkuri.jp/index.html>